

おはようございます。一昨年4月より渋谷前会長の後を受け、日本英語英文学会第4代会長に就任しました野村忠央でございます。第33回年次大会開催に先立ち、一言ご挨拶申し上げます。

本日は年度末のお忙しい中、先生方には広く、きれいな千葉工業大学新習志野キャンパスにご参集頂き、誠にありがとうございます。対面での大会開催、懇親会開催は2019年3月、日赤看護大での第28回年次大会以来、実に5年ぶりのことでございます。賛助会員のDTP出版さん、開拓社さんに今大会の出展依頼をした際にそのことに気付きました。その時、「日赤での大会がもう5年前とは、コロナ禍の無益な対応に追われているうちに大事な月日があったという間に過ぎ去ってしまっていたんだ」と感じ、思わず涙がこぼれました。先生方も自分の年齢の実感、今の実年齢より5才ぐらい若い感じがされませんか？ コロナ禍の世界が始まり、授業も学会もオンラインとなった時は苦労の連続で「もしかして残りの教員・研究者人生、一生このような世界が続くのだろうか…」と暗澹たる気持ちになりましたが、2024年を迎えた現在、人類がコロナ禍の世界を何とか乗り越えて、マスクを外し、授業も学会も対面の世界に戻ったことを我々は共に喜ぶべきと存じます。

さておき、Zoom画面を通して前回大会の開会挨拶でも申し上げたことですが、昨年2023年1月5日付で本会が日本学術会議協力学術研究団体に指定されました。申請までは煩雑な書類の作成と苦労の道のりでしたが、この学術団体指定の喜ばしいニュースを改めてみなさまと分かち合いたいと存じます。

学術団体指定後、その効果もあってでしょうか、他学会では会員減少が深刻な問題となっている中、本会は会員の入会が続き、現在135人の会員数となっております。また、本日、みなさまのお手元に配布されました学会誌33号には、通常号では一番の投稿数だと思いますが、16編もの投稿があり、11編が掲載に至りました。そして、本日の第33回年次大会では英語学のシンポジウムが1件、研究発表が3室に分かれ、英米文学が4件、英語学が6件の計10件もの発表が予定されております。大会当日に至るまで大会準備にご尽力下さった大会運営委員会の川崎修一委員長、関田誠副委員長、大会運営委員の先生方、及び事務局・広報委員の先生方、そして、浜野志保先生、相原直美先生、木村博子先生を含めた開催校委員の先生方に記して感謝申し上げます。本日は当日会員を含め、およそ70名もの参加者が予定されております。司会者、発表者、会員の先生方にはどうぞよろしくお願い致します。

昨年も申しました通り、どの大学も受験者の減少傾向が続き、学会も含め、厳しい時代が続いておりますが、どうぞ会員、役員のみなさまには、これまで以上に学会発表や学会誌投稿で本会を盛り上げて頂き、また本会を活用して頂ければと存じます。

以上をもちまして、大会のご挨拶に代えさせていただきます。本日は最後までどうぞよろしくお願い致します。